

茅野市情報プラザ ～ICT講習会参加者募集のお知らせ～

講座名	内容	講習日程	時間	会場	受講料	申込期間	対象
みんなのパソコン広場 ☆パソコン、スマートフォン初級者 お助け隊☆	ワード・エクセルの初歩的な操作など、パソコン初級者とスマートフォンの初歩的な操作などのちょっとしたお困りごとの相談、サポートをします。	3/ 3(水)	午後2時～5時 (相談時間は一人30分まで)	ワークラボハケ岳	500円	2/18～3/1	・1日若干名 ・ご使用しているノートパソコン、スマートフォンをご持参できる方。
		3/17(水)				3/4～3/15	

応募少数の場合または新型コロナウイルス感染症対策の状況により中止させていただく場合もありますので、あらかじめご了承ください。

申込・問 地域戦略課情報政策係 ☎72-2101(内線 236・237)

コラム

医療の現場から



諏訪中央病院開院70周年を迎えて

諏訪中央病院 院長 吉澤 徹

昨年は新型コロナウイルス感染症の世界的流行に見舞われた年でした。その中で諏訪中央病院は開院70周年を迎えました。節目を迎えた諏訪中央病院の目指す医療について歴史的経緯を含めてお話ししたいと思います。

旧病院が塚原にあった黎明期に、当院は「地域医療の実践」を基本理念としていました。その根底にあったのは「同じ病気で東京の人が助かり諏訪の人が助からないという不平等をなくすこと」という考えでした。そのために医療のレベルアップを図りつつ、当時の病院スローガンが生まれました。それは、

- ①予防からリハビリまでの一貫した医療
- ②地域に密着した手づくりの医療
- ③救急、高度医療を担う、という3つでした。

高度急性期医療を担う専門医の確保と24時間体制の救急医療や、高齢化の進む地域に必要とされる総合診療を担う医師や医療スタッフの獲得と育成に、病院は力を注いできました。

その次に「救命はできるようになったが、幸せにできるようになったか」という命題が出てきました。まだ介護保険が始まっていない時代に、当院では24時間の在宅ケアやデイケアが開始されました。昭和59年頃、病院の図書室などを利用して始められたデイケアは、国のデイケア制度のモデルになりました。平成10年には6床の「日本で一番小さな緩和ケア病棟」が誕生しました。リハビリテーションにも力を入れ、回復期リハビリテーション病棟が開設され、療養型病棟や地域包括ケア病棟など、患者さんのニーズに対応できるさまざまな療養環境を整備しました。その頃から「患者中心の医療」「いのちに寄り添う医療」という理念も、徐々に職員に浸透してゆきました。それが現在の病院スローガンである「あたたかな急性期病院」につながっています。

諏訪中央病院は、患者さんや地域住民の皆さまから「この地域には諏訪中央病院が必要だ」と思っただけの病院を目指します。生きるか死ぬかの時に最も頼りになる病院、困ったときに信頼して相談できる病院、人生の終末期を任せられる病院です。今般の新型コロナウイルス感染の診療においては、その役割の重さを職員一同あらためて痛感いたしました。

諏訪中央病院が70年の歴史を重ねてこられたのは、地域の皆さまのご理解とご支援のたまものです。これからも病院職員が一丸となって、地域のニーズに応えるため知識と技術の研鑽に励み、病める患者さんに寄り添い思いやる姿勢を忘れずあたたかな医療人であり続けるよう精進いたします。

新しい年が皆さまにとって良い一年となりますことを、心からお祈りいたします。